

第7章 バスキュラーアクセス

バスキュラーアクセスについては、腹膜透析を除く体外循環透析（施設血液透析、血液透析濾過、血液濾過、血液吸着透析、在宅血液透析）患者を対象に集計した。

バスキュラーアクセス種類と年齢および性別について274,382人から回答が得られた。自己血管による動静脈瘻（arteriovenous fistula: AVF）は男性で91.5%、女性で84.6%を占めた。男女とも年齢が高くなるにつれて、AVFの占める割合が低下する傾向を認めた。人工血管による動静脈瘻（arteriovenous graft: AVG）は男性で5.5%、女性で10.6%を認めた。表在化動脈を使用しているのは男性で1.6%、女性で2.0%であり、表在化動脈の占める割合は男女ともに増える傾向にあった。長期留置型静脈カテーテルは男性で0.9%、女性で2.2%使用されていた（図50、補足表50）。

バスキュラーアクセス種類と透析歴および性別について274,243人から回答が得られた。自己血管による動静脈瘻（AVF）の占める割合は、透析歴5年以上で男女ともに透析歴が長くなるにつれて低下する傾向を認めた。一方、人工血管による動静脈瘻（AVG）は、男女ともに透析歴が長くなるにつれて増加する傾向を認めた（図51、補足表51）。

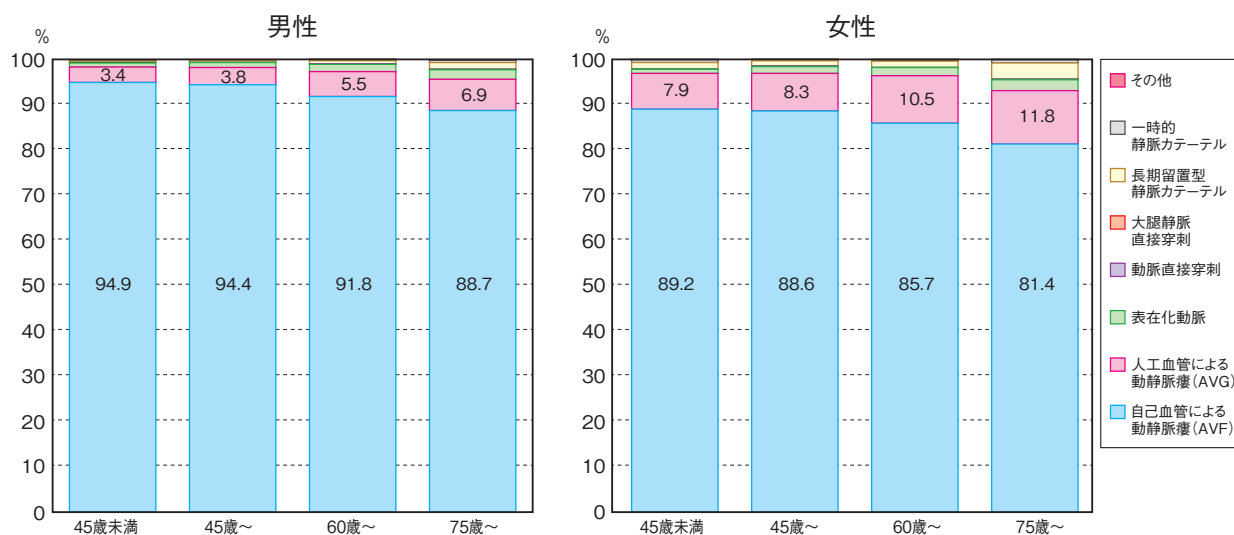


図 50 バスキュラーアクセス種類と年齢 性別, 2017

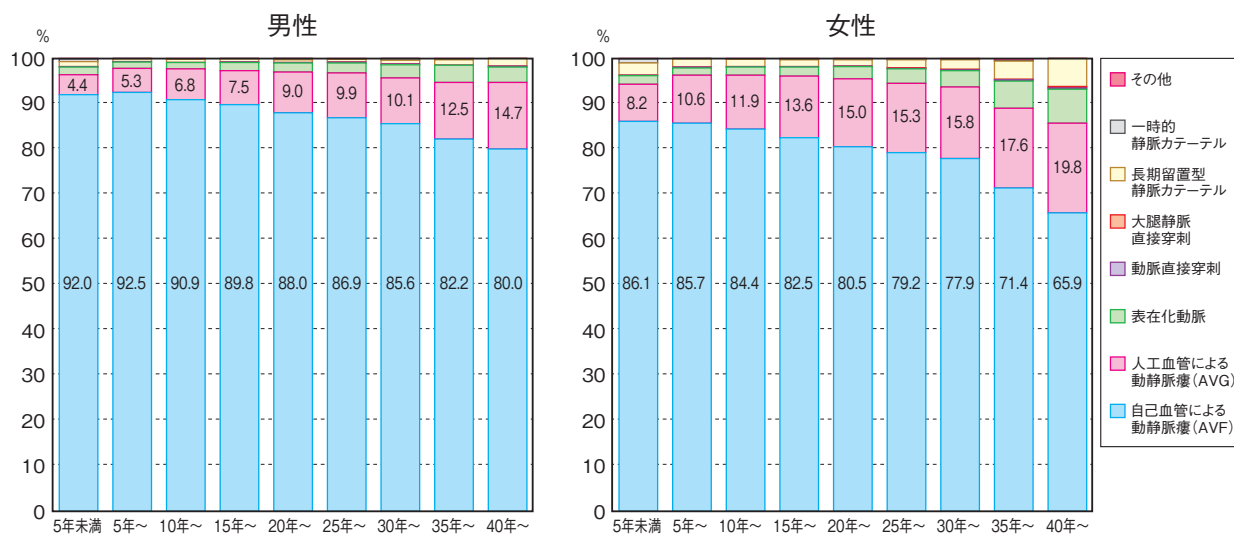


図 51 バスキュラーアクセス種類と透析歴 性別, 2017